

e シンキング (人づくり広域連合政策情報メルマガ) 第 8 1 号

2 0 1 1 / 7 / 1 5 発行 (月 1 回発行)

【 目 次 】

今月のトピックス

「自治体と『プロボノ』～現役世代の社会参加の促進～」

広域連合からのお知らせ

行政課題研究会への参加者を募集中

政策情報誌「Think-ing」第 1 3 号への投稿を募集中

私の選んだこの一冊

「コミュニティデザイン - 人がつながるしくみをつくる - 」

政策情報ライブラリー新着図書のご案内

今月のトピックス

……自治体と『プロボノ』～現役世代の社会参加の促進～……

最近、プロボノが注目されています。プロボノの明確な定義はありませんが、一般的には「社会的・公共的な目的のために、自らの職業を通じて培ったスキルや知識を提供するボランティア活動」という意味で使われています。ラテン語の「公共善のために (Pro Bono Publico)」が語源です。

「職業を通じて培ったスキルや知識」を提供するのが通常のボランティアと異なる点で、例えばウェブデザイナーが N P O などのウェブサイトの立ち上げを手伝ったり、税理士が N P O などの会計処理を手伝ったりすることが典型例です。通常のボランティアよりも、その人の専門能力を有効に活用できるのが特徴です。

メディアで紹介されることが多くなったこともあり、今プロボノを始める人が増えています。

現在、国では、国民、N P O や企業、行政などが協働して、支え合いと活気

のある社会をつくる「新しい公共」を推進していますが、その中心的役割を期待されるNPOのマンパワーは十分でないのが実情です。

埼玉県が県内のNPOを対象に実施した「NPO実態調査（平成20年6月）」によると、NPO活動を行う上での課題として最も多いのは、「特定の個人に責任や作業が集中する（45%）」など人材不足に起因する問題でした。

こうした中、NPOの活動を支援するため、自治体がプロボノを活用する事例が動き始めました。

神奈川県は、プロボノ希望者とNPOとのマッチングを行っているNPO法人「サービスグラント」と協働し、昨年度「かながわプロボノプロジェクト」を実施しました。

この事業では、神奈川県内に在住・在勤のプロボノ参加者を募り、プロジェクトチームを編成し、精神障害者の就労支援の場としてNPOが経営している自然食品店の広告用のチラシやパンフレットを作成しました。

神奈川県では、十分な成果が得られたものと評価し、今年度はさらに支援対象のNPOを増やしてプロジェクトを実施する予定とのことです。

自治体がプロボノを活用し、NPO活動を支援することで、「新しい公共」のサービス提供の基盤強化を図ることが期待できます。さらに、これまで地域社会との接点が少なかった現役世代の社会参加を促進できるのも大きな効用です。

近年、「血縁」や「地縁」とは別に、まちづくりへの参加など「志縁」でつながる新しいタイプの「人の輪」が広がりを見せています。こうした中、プロボノへの関心の高まりは、地域コミュニティの再生を図る上で好機といえるのではないのでしょうか。（ほ）

=====

広域連合からのお知らせ

行政課題研究会の参加者を募集中！

当広域連合では、自治体が抱える行政課題について、有識者とともに、参加者の皆さんが問題点を明らかにし、課題解決策を検討するワークショップ型の研究会を実施します。

今回はテーマを「子育て支援を考える～政策法務の視点から～」とし、埼玉県内における現状と課題を踏まえながら、条例案の策定を通じて、子どもを産み、育てやすい社会を実現するための子育て支援策を検討します。

皆様の御参加をお待ちしています。

日 時 : 平成23年8月19日(金)、9月27日(火)、
10月21日(金)の3日間

時間はいずれも 9 : 0 0 ~ 1 6 : 3 0

会 場 : 彩の国さいたま人づくり広域連合自治人材開発センター
(J R 土呂駅東口徒歩 5 分)

定 員 : 2 0 名

8 月 1 9 日 (金) の基調講義 (公開講座) のみの参加も可能です。
基調講義のみ参加の場合の定員は 6 0 名です。

内 容 : 有識者による基調講義を踏まえたグループ研究・意見交換・発表
などを行います。

講 師 : 関東学院大学 法学部教授 出石 稔 氏ほか

申込期限 : 平成 2 3 年 7 月 2 9 日 (金)

行政課題研究会の詳細はこちら (申込様式あり)

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/07/H23/annai.htm>

政策情報誌「Think-ing」第 1 3 号への投稿を募集中！

当広域連合では、政策情報誌「Think-ing」を毎年度 1 回発行しています。

このたび、今年度発行予定の第 1 3 号に掲載する論文等を、県内自治体職員を
対象に募集することとしました。

募集内容は、特集テーマ「自治体の危機管理～震災からの教訓～」に関する
論文・事例、特集テーマ以外の自治体が抱える課題をテーマとした論文、事例・
取組紹介、政策研究・自主研究報告、政策形成研修から政策案発信、職員の声
です。

応募される方は、平成 2 3 年 8 月 1 2 日 (金) までに要旨をお送りいただき
応募のエントリーを行ってください (職員の声を除く) 。

詳しくは、こちら

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/81sien/01/13/appli/thesis.htm>

皆様からの御応募をお待ちしています。

=====

私の選んだこの一冊

「コミュニティデザイン - 人がつながるしくみをつくる - 」

(山崎亮 著 / 学芸出版社)

「僕たちの仕事は地域に住む人の話を聞き出すことから始まる」。本書の
最初に書いてあるこの言葉が、この本で紹介されている著者のプロジェクト進

行の基礎となっています。著者は、地元住民のニーズを調査して公共事業に活かしたり、企業と住民のコラボレーションプロジェクトの橋渡しをするコミュニティデザイナーです。コミュニティデザインは、住宅の配置計画や公園を物理的に設計するハードの部分のみを指す言葉として一昔前まで使われていました。しかし、著者が言うコミュニティデザインは、ハードの部分だけではなく、そこに人と人とのつながりをデザインする、言わばソフトの面を組み合わせるプロジェクトを進めていく手法を指しています。本書では、著者自身が手掛けた現在進行中のものを含めた17のプロジェクトの紹介を通じて、コミュニティデザインにより地域を活性化させるプロセスを紹介しています。

なぜ著者は、ソフト面を重視したコミュニティデザインの手法を採るようになったのでしょうか。それは、造られる公園が次々と「10年もしないうちにほとんど人がいない寂しい場所になってしまう」という問題を意識したからだと思います。造られた後の運営方法まで考えていないのでそのような寂しい場所になってしまう。そこで著者は、サービスを提供する側と享受する側がともに計画の早期の段階から参加し、率直にお互いの気持ちを語り合い計画に反映させること、造ったら終わりではなくその後しっかりとした運営体制を作り上げることが大切であるとしています。

本書では、地域が活性化した数々の成功事例が挙げられる中、一つだけ上手くいかなかった事例として、「水都大阪2009」というイベントのプロジェクトが紹介されています。そこでは、行政のプロジェクトへの関わり方が問題であったと指摘しています。著者は、イベント終了後、参加したボランティアスタッフたちが継続してまちづくりの担い手となるような姿を思い描いていました。しかし、そこに参加していた大阪府、大阪市などの行政間に意識のズレがあり、予算、各主体の役割分担の調整が難航し、時間を浪費したため、参加者のやる気を継続させていくことができなかったということです。現在、公共の担い手として様々な主体が関わり、地域の課題解決に向けて取り組んでいます。そのような時代には、「住民の活動レベルに合わせた行政内部の決裁システムに変えなければならない。変えられないのであれば、あらかじめ住民と協働できる制度的、予算的フレームを設定する必要がある」と著者は述べています。

地域の活性化といえば、新しい産業や雇用創出などの経済波及効果という側面から語られることもあります。しかし、それらが集積している東京など大都市圏は本当に地域が活性化し、住民は幸せに暮らしているのでしょうか。「人と人とのつながり」を大切にするコミュニティデザイン的一端に触れながら、地域活性化に対して改めて考えさせられた一冊でした。(む)

=====

政策情報ライブラリー新着図書のご案内

7月の新着図書は次の5冊です。

『自治体の事業仕分け - 進め方・活かし方』

滋賀大学事業仕分け研究会・構想日本 / 編著 学陽書房

『持続可能な地域実現と地域公共人材 - 日本における新しい地平』

白石克孝・新川達郎・斎藤文彦 / 編 日本評論社

『現代の貧困 - ワーキングプア - 雇用と福祉の連携策』

五石敬路 / 著 日本経済新聞出版社

『逆発想の都市政策』

和田清美 / 監修

首都大学東京都市教養学部都市政策コース / 編 ぎょうせい

『自治体政策法務 - 地域特性に適合した法環境の創造』

北村喜宣・山口道昭・出石稔・磯崎初仁 / 編 有斐閣

蔵書の閲覧・貸出は、構成団体職員の方ならどなたでもできます。

詳しいご案内、蔵書一覧は

<http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/82network/02/Library.htm>

=====

ご意見・掲載希望

今月号のeシンキングはいかがでしたか？ご意見・ご感想がありましたら下記担当までお寄せください。また、各コーナーでは皆様からの参加レポートなどの情報提供を随時募集しています。「これは記事になるかな？」というものがありましたら、お気軽にご連絡ください。

[eシンキング / 毎月15日発行]

発行元

彩の国さいたま人づくり広域連合 政策管理部 (石橋・村田)

〒331-0804 さいたま市北区土呂町2 - 24 - 1

TEL: 048-664-6681 FAX: 048-664-6667

WebPage: <http://www.hitozukuri.or.jp>

E-Mail: jinzai03@hitozukuri.or.jp

=====